

桑折町農業協同組合（JAこおりまち）



代表理事組合長	朽木 由 市	役員数	20名
所在地	〒969-16 伊達郡桑折町字館28	理事	16名（うち常勤 1名）
	☎0245-82-2271	監事	4名
設立年月日	昭和39年3月2日	職員数	80名（男53名 女27名）
		臨時	11名

I 地区の概況

当地区は、東経140度31分・北緯37度51分にあり、宮城県境に近いとともに県都福島市に接しており、町の総面積は43.09km²である。町の中央を国道4号線が南北に横断しているほか、東北新幹線・東北本線・東北自動車道もこれに平行して走っており全体的には南北への動線が強い、稲作と果樹を基幹作物とした田園地帯であるが、近年は交通立地条件を生かして工業振興も進んでいる。

気候は阿武隈高地と奥羽山脈の中間地帯にあ

るため、内陸性（盆地性）気候を示し、しかもこの気候帯の最北部にあつて、地形が変化に富むために気温の差が大きく気象状況も変化に富んでいる。年平均気温は13.46℃で県内では比較的温かな方であるが、寒暖の差が大きく、7～8月の最高気温は29～30℃。1～2月の最低気温は0～3℃内外となっている。毎年10月下旬から霜があり、11月下旬から12月にかけては盆地の平野部よりは早めに結露・降雪がみられる。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

当地区の農業も全国的な「農業離れ」現象に逆らうことができず、総農家戸数・経営耕地面積等、下記図表が示す通り減少の傾向をたどっている。

総農家戸数における専業農家の占める割合は極端な減少を示しており、逆にⅡ種兼業が占有する割合の伸びの高さが目立っている。年度が変わるにつれその動きは顕著で、農業収入のみで生活する不安定さから、農業はあくまで副収入と考え職につく人が多く、この状態は今後も続くだろうと考えられる。

経営耕地面積は、減反政策による田や畑とも減少傾向を示すなか、樹園地に限っては、この15年間減少しているものの、それは田畑の比ではなく、一応の踏ん張りを見せている。これは桑折町がその名の通り桑を主体とした養蚕の町から、もも主体の果樹の町への転換が行われたことによるものである。

収穫面積は、稲に関しては経営耕地面積に対して比較的安定した収穫面積を示している。そして麦・野菜・飼料用作物類が減少を示す中、堅実な伸びを見せたのが果実類である。これは先にも述べたように果樹主体への変遷によるものだが、その果実の中でも主産物として力を入

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数 (戸)		1,637	1,651	1,617	1,482	1,341	1,286
うち 専業 (戸)		1,187	661	159	197	165	129
I種兼業 (戸)		317	665	887	502	300	208
II種兼業 (戸)		133	325	571	783	876	949
経営耕地面積 (ha)		1,422	1,419	1,361	1,221	1,107	1,088
うち 田 (ha)		693	697	698	615	564	559
畑 (ha)		418	341	232	173	131	107
樹園地 (ha)		310	381	429	432	412	407
収 穫 面 積	稲 (ha)	659	693	693	576	516	433
	麦 類 (ha)	384	338	102		1	
	野菜類 (ha)	123	134	87	69	48	31
	うちいちご (ha)		4		5	1	1
	果実類 (ha)	94	242	304	367	398	393
	うちもも (ha)	23	106	161	224	260	247
	りんご (ha)	51	124	137	93	83	92
	飼料用作物 (ha)	10	15	3	16	10	
飼 育 頭 羽 数	乳用牛 (頭)	4	37	244	38	48	27
	肉用牛 (頭)	481	434	188	92	97	63
	豚 (頭)	221	358	568	541	339	195
	にわとり (千羽)	5	11	14	12	6	5
	ブロイラー (千羽)			2	136	99	128

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

れた桃はこの40年間で収穫面積は約10倍に伸び、果実類における桃の割合も6割を超えている。

家畜は昭和40年前後にピークを迎えたが、規模的にはそれほど大きなものではなく、飼育頭羽数もブロイラーを除いては減少傾向にある。

2 経営の推移

合併以前の各農業協同組合の経営は一部で欠損金ができるなど厳しい状態であった。昭和39年に合併すると、計画的に欠損金を解消し、自己資本不足を補うため増資運動も展開された。安定的な経営を押し進めるためにも自己資本の確

立は重要であり、現在まで増資運動が計画的に行われたほか、不健全債権の解消・防止に努力がなされた。

全体的に各事業項目とも大きな伸びをみせ、貯金は平成2年度末において100億円を突破した。しかし、貸出金は伸びを示してきたものの貯金の比ではなく、貯貸率は減少の傾向を示している。

合併当初、米が販売高の約60%を占めていたが、次第に果物の占有が増加し5年度は60%を占め販売高も大きく躍進した。特に桃は共選の稼働により出荷労力の軽減と加工桃の価格の好況に支えられ急激な伸びをみせた。その後、加

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度						
		24	30	39 (合併時)	40	50	60	5
正組合員戸数(戸)		1,685	1,657	1,640	1,657	1,577	1,550	1,479
准組合員戸数(戸)		185	263	329	309	412	439	561
資 産	余 裕 金	16,444	29,633	158,644	171,671	1,751,187	5,208,561	10,270,896
	貸 出 金	8,098	38,709	90,029	192,275	921,692	2,116,369	1,903,778
	その他流動資産	7,130	25,017	56,473	68,179	275,196	896,256	381,172
	固 定 資 産	3,221	9,570	16,854	35,650	168,507	426,475	847,928
	外 部 出 資	238	4,849	8,594	9,506	31,000	89,571	137,193
負 債 及 び 資 本	貯 金	34,679	61,253	274,130	388,272	2,592,961	6,884,448	11,524,808
	借 入 金	1,550	25,773	13,346	7,653	39,000	135,770	56,663
	そ の 他 負 債	690	3,589	24,670	41,365	333,405	1,323,390	1,241,823
	出 資 金	1,449	16,762	22,417	41,964	89,192	213,720	368,712
	積 立 金	69	16	211		69,800	166,229	336,593
	剰 余 金	30		-3,955	-1,973	23,224	29,946	12,368
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	68,282	124,141		404,777	1,383,579	1,640,661	1,344,587
	うち 米 穀		84,560		229,452	554,480	607,118	361,200
	青果物		23,704		154,549	688,427	1,002,758	975,218
	うちもも				70,942	367,725	540,442	491,639
	りんご				56,620	63,313	90,935	92,627
	いちご				9,260	54,080	117,038	131,083
	購 買 取 扱 高	21,487	47,915		185,688	705,368	916,824	1,083,703
	うち 生産資材		43,279		166,494	615,940	794,598	857,031
	生活資材		4,636		19,194	89,428	122,226	226,672
	長期共済保有高				752	11,858	73,997	115,125

(注) 合併時は合併時の始期 他は年度末 合併以前の年度は合併参加農協の合計

工情勢の変化により量より質を求められる時代になると、光カラー選果機の導入により、県内平均販売単価一位を連続して示すようになり、質への転換に成功した。

購買事業は合併以来順調な伸びをみせた。48年の石油危機による価格上昇によりその取扱高は前年比135%となり過去最高の伸びとなったが、その後の伸びは鈍化し56年度をピークに平成元年度まで減少傾向が続いた。翌年度から、購買を一か所に集約した集配センターを設立し、POSシステムなど合理化を図った結果、取扱高は上昇に推移するようになった。

3 農業協同組合の設立と合併の経過

(1) 設立

J Aこおりまちの前身は、睦合村農業協同組合、桑折町農業協同組合、半田村農業協同組合、伊達崎村農業協同組合である。昭和23年にそれぞれの町村の農業会の資産を受継いで誕生した。

のちに30年、4町村が合併したのに伴い各農業協同組合の名称は、睦合農業協同組合・桑折農業協同組合・半田農業協同組合・伊達崎農業協同組合と変更になる。

(2) 苦難の道

睦合農協は、当初は経営も順調であったが、すぐ経営不振となり決算では欠損金も生じるようになったため、再建整備法の適用を受け再建に取り組むようになる。計画に基づき増資運動と固定化債権の回収、組合員の組合全利用運動に力を注いだ。その結果、その後は経営も順調に経過していった。

桑折農協は、農家戸数が少なく信用事業が中心で進められ、体当たり貯蓄運動に取り組み、

貯金は急速に伸びた。しかし35年度の異常例検査において不良資産があるとの指摘を受けた。

この対策として、組合員に公開し役員の弁済と事業の収益金をもって補てんをすることを決議し実行した。幸い、組合員の理解によって事業には特に影響なく伸長し、その後の経営状態は順調に推移した。

半田農協は、郡内でも有数の経営基盤があり、24年度の剰余金は郡内一であったが、25年度に入り一転して欠損金を出すようになる。業者に売渡しを行ったが、戦後の混乱期で悪質な業者も多く、その販売代金が大きく焦げついてしまったのである。回収に努力したが進まず、再建整備の適用を受けることになり、焦げついた貸付金やその他の債権の回収など欠損金の解消に精力を注いだ。

伊達崎農協は、発足時から特に自己資本の充実が急務であるとの意識から、増資運動を行ったほか、資金の内部留保にも努めるなど健全経営が図られ、経営は順調に推移した。

(3) 合併の経過

昭和30年4町村が合併し、新「桑折町」が誕生した。今まで各町村毎にあった4農協は協議会を結成し、同一歩調をとりながら事業を進めてきたが、各農協の現状である経営規模の狭小・営農指導体制の不備・営農金融における財的不足等では組合本来の事業目標を達成することは不可能な状態だった。もっと大きな基盤づく

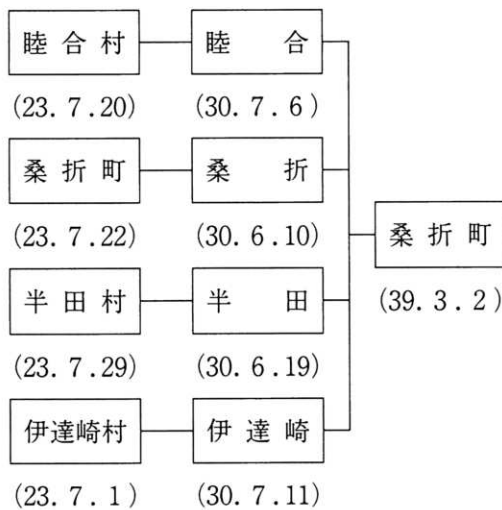
図表3 合併参加農協の概要

組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
睦合	木村 優	516	14	14
桑折	宍戸 房吉	404	10	7
半田	阿部 佐一	704	15	13
伊達崎	朽木久三郎	550	14	23

りが必要であるとの考えから、37年3月12日、町内4農協は合併促進協議会を結成し、新農協設立に向け準備が進められたのである。その後、幾度となく合併促進協議会や専門委員会が開かれ、合併に関する諸般の事項を協議決定していった。また、部落座談会も行われ組合員への合併の意義及び合併後の農協のあり方等啓発と調整に努めた。

そして39年1月の臨時総会で、合併について満場一致で議決した。その後、設立委員会を開催し諸規定の審査を行い原案通り議決。また新農協設立許可申請書を作成、県知事に提出した。この申請は2月24日付で認可され、39年3月2日、ここに桑折町農業協同組合の誕生をみたのである。

図表4 合併等の経緯



4 新たなる取組（先駆的経営）

J Aこおりまちは、合併後、高度成長化時代の伸長期とオイルショックの低成長期や冷害等の自然災害を乗り越えながらも、経営は順調に推移していった。

しかし、移り行く時代の中で産地間競争に生き残るためには、その土地の特色を生かした産

物づくりや消費者志向を考えた生産が求められていた。平成3年から始動した光カラーセンサ機は、これからの時代を生き抜くものとして画期的なものであった。

4年夏より設置、稼働を始めた光カラーセンサで選果された桃は、一個一個の品質が保証され市場でも好評で高値販売で安定した価格を維持した。また毎日選果された桃の実績は、糖度・等級・階級・熟度の割合別にグラフ化され、品種の収穫時期のデータとして大きな効果をもたらし、高品質果実生産に活用された。

光カラー選果機は日本で初めて桃に使用されたことに伴って広くマスコミで報道され、県知事を始め県内外から多くの視察者が訪れた。

この光センサと同時期、農産物加工施設にも着手し加工所を新設。桑折町が王林の原産地であることから、王林等を原料とした添加剤を一切使用しない完熟りんごジュース「食べごろ林檎」や減反水田で収穫された大豆と、桑折産コシヒカリを使い無添加で加工した減塩味噌「愛情手づくりみそ」を生産し町特産品として売り出した。

また、地産野菜を直売所にて販売。この直売所は、本所整備事業の一環として建設されたもので、その新鮮さがうけて組合員のみならず一般主婦の方も多く買いに来ており、地域とのふれあいを密にしていった。


こうした光センサー・加工事業・直売所等の事業は、いままで農業の生産面を基本に進められていた活動を、これからは販売宣伝まで勉強し、消費者を目に置いた生産活動が必要であることを認識し実行した姿だった。

6年3月に39年の合併以来30周年を迎えたJ Aこおりまちは、いま伊達地区J A合併促進協議会の一員として大合併に向けて邁進中である。

Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年		37年	
7. 1	伊達崎村農業協同組合発足	3.12	町内4農協の合併促進協議会結成
7.20	睦合村農業協同組合発足	3.17	町内4農協と国見地区農協が出資して川西地区農機具サービス協会を設置
7.22	桑折町農業協同組合発足		○この年から一日皆貯金開始
7.29	半田村農業協同組合発足	38年	
26年	再建整備の指定を受ける（睦合・半田）	11.28	財務確認検査（～29）
30年		11.30	合併予備契約書を締結
1. 1	睦合村、桑折町、半田村、伊達崎村が合併して桑折町となる	39年	
5.29	経済連 系統利用優秀農協として表彰（伊達崎）	1. 9	臨時総会開催（合併予備契約書承認）
6.10	桑折農業協同組合と名称変更	1.22	第1回桑折町農業協同組合設立委員会
6.19	半田農業協同組合と名称変更	2.24	桑折町農業協同組合設立認可
6.28	全共連 共済事業優績農協として表彰（半田）	3. 2	睦合、桑折、半田、伊達崎4農協が合併して「桑折町農業協同組合」発足
7. 6	睦合農業協同組合と名称変更	4. 4	本所、共選所用敷地取得
7.11	伊達崎農業協同組合と名称変更	6.12	全共連 共済事業優績農協として表彰
32年			○この年4月29日の凍霜害、秋の長雨などにより農産物被害大
5.30	農林中金支店長 貯蓄優良農協として表彰（伊達崎）	40年	
5.31	全購連 農薬全利用共計運動優良農協として表彰（睦合）	4.29	第1回通常総会
9.30	整備特別措置法に基づく指定を受ける（半田）	5.10	共選所完成検査、引渡し
33年		5.10	本所事務所、現在地に移転
5.29	農林中金支店長 貯蓄優良農協として表彰（伊達崎）	6.10	本所事務所、共選所落成式
	○この年「体あたり貯蓄運動」展開され睦合、桑折、伊達崎農協が参加 好成績を挙げる（35年まで3か年実施）		○この年米豊作、米の取扱数量35,014俵
34年		41年	
5.29	農林中金支店長 貯蓄優良農協として表彰（伊達崎）	1.10	有線放送建設委員会設置
35年		9. 1	有線放送通話開始
11.11	県下農協大会で優良農協として表彰（伊達崎）	42年	
	○この年半田農協も体あたり貯蓄運動に参加、好成績を挙げる。	1.18	有線放送・公社電話接続開始
36年			○米豊作42,508俵取扱
3.31	整備特別措置法に基づく目標達成（半田）		○2月末で合併繰越欠損金解消
7. 8	全共連 共済事業優績農協として表彰（半田）	43年	
		10.24	合併農協経営改善現地指導会（～26）
		11.19	購買倉庫完成
			○米遅出奨励金制度実施され、翌年出荷者若干有り
		44年	
		9. 8	合言葉の制定「集まって強くなろう」
		11.30	米準低温倉庫完成
			○集会所、共同開葯施設が完成
			○第1回目の短期成園化事業実施
		45年	
			○素牛導入事業（50頭）実施

県北地方の農業協同組合

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
46年		54年	
1.30	役員選出制度審議委員会	3.28	第1回籾乾燥調製組合総会、施設落成式
5.24	経済連 系統利用優秀組合として表彰	4.21	第15回通常総会(地域農業振興計画樹立)
6.6	共済優績組合全国表彰	8.4	伊達崎支所野菜集荷所完成
7.10	果樹出荷協議会開催	9.28	年金福祉クラブ設立準備委員会
11.4	優良農協現地調査(中央会)(~5)	10.13	各支所年金福祉クラブ設立総会(~13) ○桃園再開事業取り組み開始
11.5	毎月5日を「農協貯金窓口の日」と制定実施	55年	
11.19	県下農協大会で優良農協表彰受賞	1.3	正月貯金日の実施(初回)
47年		9.3	県北地方で初めての健康増進活動開催(~4)
4.6	野菜集荷所完成	9.11	農作物不順天候対策本部を設置
48年		9.18	異常気象による農作物被害の現地調査
3.27	冷蔵倉庫完成	56年	
6.15	冷蔵倉庫・野菜集荷所・購買倉庫(睦合支所)落成式	5.25	経済連 系統利用優秀組合として表彰
49年		6.1	農協の期日指定定期貯金の発売
1.30	オイルショックに伴う資材取扱対策会議	7.1	農地取得資金貸付の検査(農政事務所)
4.18	桑折町農協婦人部結成	11.1	オンラインシステム加入を決定
6.18	中央給油所完成	57年	
50年		1.14	そ菜部連絡協議会結成
9.26	毎月26日を「組合員の日」とし実施	2.16	冷蔵倉庫保安検査(県工業開発課)
10.1	為替業務 本所にて取扱い開始	6.28	オンラインシステムスタート
10.15	広報誌「農協こおり」創刊	7.3	もも穿孔細菌病及びイネミズゾウ虫防虫対策会議
12.1	LPガス中央給油所一元化取扱開始	9.6	FST研修(桑折支所管内)(~9)
12.19	LPガス貯蔵庫完成	9.20	もも栽培・出荷反省会
51年		11.25	年金福祉クラブ協議会主催の健康講話会
2.16	睦合支所事務所完成	12.4	農機・自動車修理工場完成
6.30	有線放送と公社電話接続廃止	58年	
7.1	専任金融外務員を配置(睦合・桑折・伊達崎支所)	2.20	自動車車検整備事業を開始
10.1	各支所で為替業務取扱い開始	5.20	全共連 優績組合表彰(東京)
52年		8.25	合併20周年記念特別委員会を設置
3.16	大型トラクター導入	10.18	第1回農業祭実行委員会
12.2	籾乾燥調製組合設立準備委員会結成	11.22	農機具格納庫完成
12.14	桑折支所事務所完成	11.25	労災保健関係検査(労働基準監督署)
53年		11.19	合併20周年記念第1回農業祭を開催(~20)
4.1	水田利用再編対策開始(S61年度まで)	59年	
6.12	宮城県沖地震発生 管内の被害大	4.21	第20回通常総会及び合併20周年記念式典
6.13	農業青年部結成	4.23	農作物等発育遅延に対する緊急対策会議
6.14	宮城県沖地震被害対策緊急理事会	8.4	ヘリコプターによるイモチ病防除開始
8.2	籾乾燥調製組合設立総会	8.13	全銀内為制度加入
9.7	ライスセンター施設完成、25日より稼働	8.14	保原町中瀬地域もも被害調査
		12.7	桑折町農作物等異常気象対策本部会議 ○  マーク果樹専用肥料発売

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
60年		9. 1	葬祭事業開始
2. 14	農業所得税務研修	12. 31	年末貯金残高100億円突破 (101億 9 千万円)
3. 19	農業青年部と J A 理事との懇談会	3年	
3. 29	伊達崎支所事務所落成式	1. 21	食材宅配事業開始
5. 13	A T M稼動 (桑折支所)	2. 25	県の臨時検査
11. 20	年金友の会代表者交歓会 (県北方部)	3. 2	役員研修 (株) 流研により (~13)
12. 3	王林発祥の地記念碑完成除幕式	3. 15	町との共催で農事講演会開催
12. 24	中核農家簿記講習会	5. 1	稲作部会設立
61年		5. 10	長期共催満期者の集い
4. 24	東北新幹線日陰補償対策説明会	6. 10	共選場 (フルーツアイランド) 完成
6. 10	東北新幹線日陰補償に係わる現地調査	7. 29	農産物直売所 (フレッシュBOX) オープン
8. 5	台風10号通過 (8.5水害)	8. 3	県北地方農協女子職員バレーボール大会で優勝
8. 8	8.5水害による被害対策会議	9. 1	旅行センター設置
10. 1	農協婦人部くらしの会発足	4年	
62年		2. 7	高品質桃生産講演会
1. 12	東邦銀行とのC Dオンライン業務提携	2. 14	資材倉庫 (集配センター) 仮引受
4. 1	水田農業確立対策始まる (前期3年・後期3年)	2. 20	王林原木保存会設立
4. 30	共済億友会設立総会	2. 28	加工施設取得事業完了
5. 21	半田支所事務所・購買倉庫完成	3. 5	C Iプロジェクト委員会
7. 1	購買事業オンラインスタート	3. 21	21戦略推進委員会
7. 6	マイクロバス購入	4. 1	「J Aこおりまち」スタート
63年		5. 1	J Aこおりまち会館、資材倉庫完成
2. 23	桑折町養蚕農協との合併推進委員会	5. 7	農産加工部会設立
6. 1	桑折町養蚕農協を吸収合併	6. 13	J Aこおりまち会館・共選場・集配センター・光センサ選果機・農産物加工所の落成式
9. 14	信用事業総点検 (中央会・県信連)	6. 25	伊達地方 J A 合併研究会発足
12. 31	年末貯蓄目標80億円達成	9. 11	コイン精米機設置
元年		5年	
1. 21	農業経営講習会	2. 26	桃高品質果実生産者大会
8. 7	台風13号の農作物被害調査	4. 1	水田営農活性化対策開始
9. 20	町・農協・普及所による農業問題の三者会談	4. 21	水稻育苗施設取得検討会
9. 21	畜産部会設立	5. 25	J A福島経済連 系統利用優良組合として表彰
11. 28	本所会館を始めとする一連の建設整備事業に着手 (中央給油所移設工事起工式)	7. 1	J Aネットワーク開通式 (F A X通信)
2年		9. 4	合併30年史発刊編纂委員会
1. 29	桑折町との農業問題懇談会	9. 29	農産物直売宅配作業所完成
2. 9	商工会・農協との懇談会	11. 6	第1回桑折町産業祭 (~7)
2. 10	町との共催で農事講演会開催		
3. 1	集配センターを設置		
4. 19	中央給油所 (ももちゃんハウス) 完成		

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組合員

()は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個人	法人	個人	団体	個人	法・団
1,687	1	769	11	2,456	12
(1,479)		(561)		(2,040)	

5 生産部会

名 称	代 表 者	会員数
果樹部会	大 越 宇 作	573
そ菜部会	石 幡 敬	174
養蚕部会	後 藤 宗 次	3
畜産部会	野 村 忠 市	8
稲作部会	佐 藤 秀 雄	73

2 役員及び参事

代表理事組合長	朽 木 由 市	理事 大 内 一 夫
第 一 理 事	横 山 藤 吉	理事 齐 藤 生 剛
理事 大 越 宇 吉	作 吉	理事 石 幡 正 明
理事 浅 野 庄 吉	富 夫	理事 大 槻 健 一
理事 大 内 祥 富	夫 三	理事 佐 藤 秀 雄
理事 氏 家 勝 夫	三 男	代表監事
理事 花 井 末 三	男 平	佐 藤 孝 雄
理事 半 沢 光 男	雄 蔵	監事 大 槻 善 太 郎
理事 洪 谷 健 平		監事 佐 久 間 広 助
理事 吉 田 勝 雄		監事 後 藤 勝 三
理事 佐 藤 吉 蔵		参事 後 藤 健 治

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
53	27	80	4	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会員数
農事組合	松 原 敏 夫	2,069
青年部	松 原 義 宜	17
婦人部	帆 莉 七 伊	462

6 主な施設

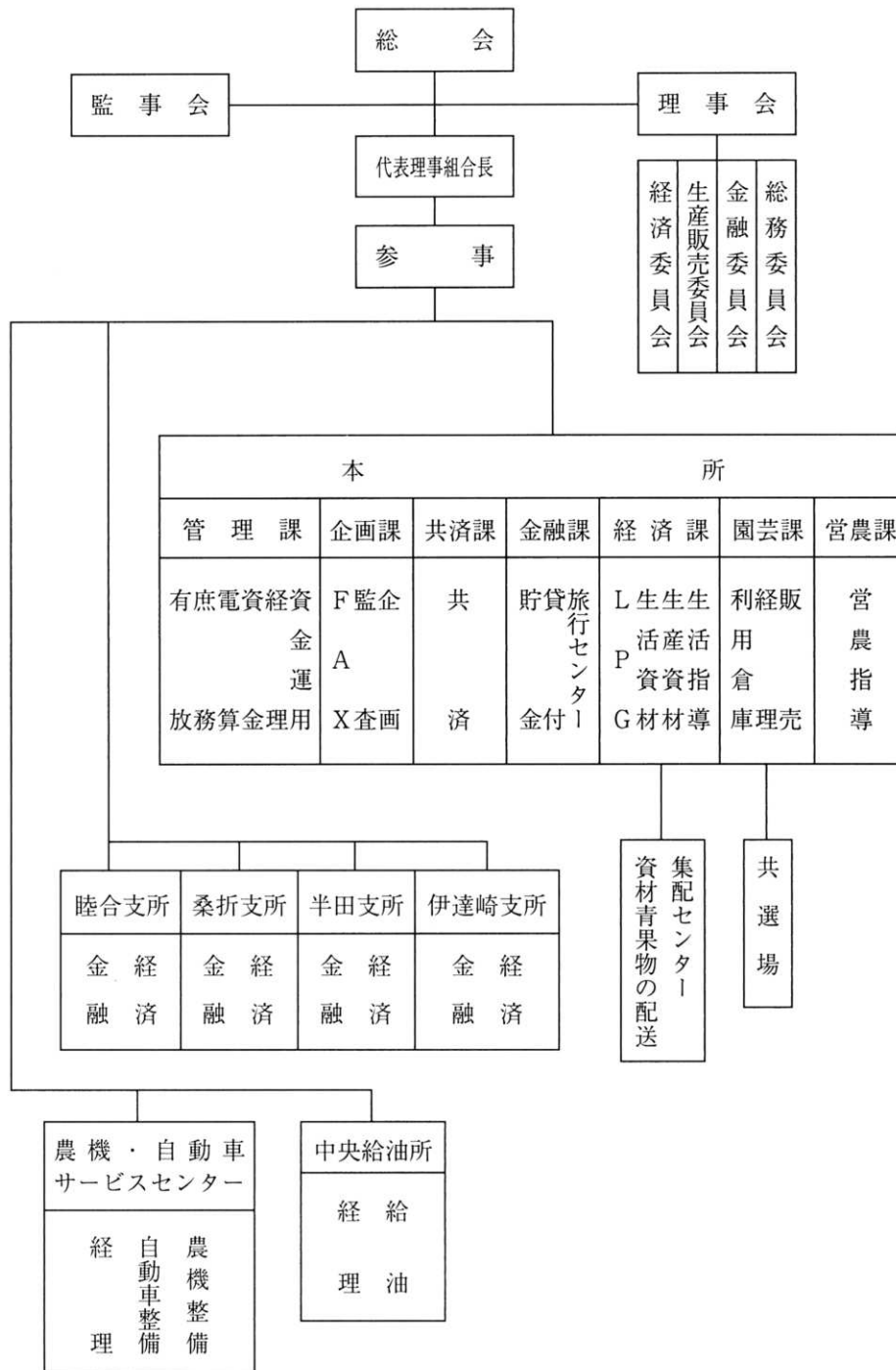
名 称	所 在 地
本所	字館28
睦合支所	大字成田字引地19
桑折 ヶ	字北町26
半田 ヶ	大字南半田字南田町1
伊達崎 ヶ	大字下郡字柿ノ口15
中央給油所	字館55-1
農機自動車 サービスセンター	㊦32-2
共同選果場	㊦28
集配センター	大字上郡字仲丸沢14-2
農産物直売宅配所	字館28
農業用低温倉庫	㊦31
冷蔵倉庫	㊦31
農機具格納庫	㊦27
籾乾燥調製施設	大字下郡字苗松10-2
有線放送室	字館28
光センサ糖度別 カラー形状選果機	㊦28

7 歴代組合長・参事

組 合 長			
39~43	朽木久三郎	52~58	朽木 久夫
43~49	阿部 佐一	58~元	木村 優
49~52	木村 優	元~	朽木 由市

参 事			
39~52	蓬田 光一	61~63	松野 嘉弘
52~61	石幡 孝司	63~	後藤 健治

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

睦合農協

23～25	浅野平重郎	26～28	佐藤 一郎
25～26	八木沼四郎	28～39	木村 優

半田農協

23～26	渡辺 宇吉	35～39	阿部 佐一
26～35	松原 源吉		

桑折農協

23～28	半沢金兵衛	28～39	宍戸 房吉
-------	-------	-------	-------

伊達崎農協

23～39	朽木久三郎
-------	-------